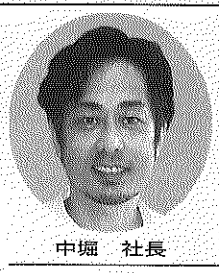
リモート施工管理で現場生産性向上

1年後に1万棟体制目指す

logbuild

logbuild（神奈川県藤沢市、中堀健一社長）は、「リモート施工管理」など同社の「logシステム」を使用した現場チェックの仕組みづくりを進め、1年後には年間1万棟体制を目指している。

同社は、建設DX推進のためlogシステムという遠隔現場チェックの仕組みを構築している。360カメラ、ビデオ通話など、同社のシスム導入を進める住宅会社が相次いでいる。


中堀　社長

また、システム導入に際して同社が実際の現場チェックなどの業務を代行し、施工者がシステムを使いこなせるようにサポートする「リモート代行」の依頼も多い。マニュアルによるチェックポイントを把握したうえで、ビデオで現場チェックを進めることにより、手戻り工事を回避できることも分かった。中堀社長は「サッシの取り付け違いなどあり得ないようなミスを見付けることがある。こうしたミスを未然に防ぐことで建設コストを抑えることにつながる」という。

同社はインフレが加速するなかで住宅会社が利益を上げるには生産性の向上しかないと考えた。そのためには施工の無駄を省くことが求められる。リモートによる13工程に及ぶ品質管理と安全パトロールの実施などを呼び掛ける。同社のリモート代行による立会報告などに加え、その場で施工指示を出して現場で対応できることで、各地で現場での1棟当たりの粗利向上も報告されている。

年間数百棟規模のビルダーのほか、数十規模のビルダーや数棟規模の大手は地域ごとに導入を進めるなど、システムの導入が進んでいる。さらに大手ビルダーも導入に向けて検討が進んでいる。積水ハウスも同社システムを導入している。

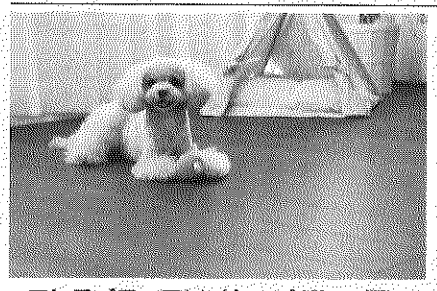
リモート代行のスタッフは、マニュアルを活用してヒアリング、目視チェックなどを行い、現在は約30人で対応している。中堀社長は「インフレが進むなかで建築業における現場施工の費用を削減することが必要。生産性向上で粗利を上げられるように取り組むべきだ」と話している。

ペット向けやWPCで床材拡充

木製の音響調整部材など新商品投入

大建工業

大建工業（大阪市、億田正則社長）は、ペット仕様やエコ基材を採用した床材や木製音響調整部材など新商品の販売に力を入れている。心地よい空間づくりを提案するとともにサステナブル社会の実現に向けて貢献する。


ワンラブフロアV（トープグレー柄）の採用イメージ

床材は、床暖房対応でペット仕様のリフォーム用上張り床材「イエリア3Tセレクトプレミアムウッド柄」全8柄を新規に追加。厚さ3㍉は同社の商品のなかでも最薄、扉などとの干渉も最小限に抑えた。また、戸建て用のペット仕様床材「ワンラブフロアV」にもプレミアムウッド柄7柄を追加し全8柄になった。スタンダード柄にはソフトグレージュを追加し、同じく8柄のラインアップとなった。これらのペット用床材は、犬の歩行に配慮した滑りにくさのほか、優れた耐傷性、防汚性で爪痕や吐き戻し、よだれ、尿といったペットの行動にも配慮した。

WPC床材「ジオラスタンダード」は環境配慮型床用基材「Eハードベース」を採用。WPC床材は、強度が求められるため南洋材合板の表層に特殊強化層を設けたWハードベースを使用してきたが、性能を担保できた製品から順次Eハードベースへの切り替えを進めている。同商品は、5色の展開でリブランドした新内装シリーズ「イエリア」の建具ともコーディネートしやすい。

音響拡散パネル「リブトーン」は拡散機能があり、スチール製パーティションに後付けでき、木製の音響調整部材としては業界初の製品。スクエア（四角形）とヘキサ（六角形）の2種で木は国産杉を用いている。また、吸音機能により不要な響きを抑える「オフトーン マグネットパネルN」には、4分の1の扇形、半円形の新形状を追加。デザインも7柄75色を追加して全10柄141色まで増やした。裏面はマグネットのため取り付けも簡単だ。これら2つの商品を組み合わせることで拡散と吸音の2種類のアプローチによる音環境改善に加え、デザイン性と快適性に優れた空間を提案する。

建設分野の特定技能外国人材受入れ解説

メイクワン

メイクワン（愛知県豊田市、小幡健社長）は、外国人材の雇用を検討している建設事業者向けに、特定技能制度におけるJAC（建設特定技能受入協議会）の重要性と活用方法の解説記事を公開した。また、特定技能外国人材の受け入れに関する特別セミナーも年内に開くことを発表した。

建設業界では特定技能制度を活用した外国人材の受け入れが課題となっているが、建設分野では他業種と異なりJACへの加入義務付けなど独自の要件が存在する。

今回、同社ホームページで公開した記事「建設分野の特定技能制度における『JAC』の重要性と活用ガイド」では、JACの基本情報から、加入時の費用や負担、社内体制整備のポイント、さらには制度変更への備えといった実践的な内容まで解説している。

年内開催予定の特別セミナーでは、特定技能制度の基本的な仕組み、新対象分野における具体的な受け入れ要件、準備すべき社内体制、受け入れ後の支援体制など実践的な内容を解説するほか、実際に外国人材を受け入れている企業の事例なども紹介する予定だ。

50周年事業で情報発信力強化

日本ツーバイフォー建築協会

日本ツーバイフォー建築協会（東京都、野島秀敏会長）は、2024年の2×4工法オープン化50年及び26年に迎える協会設立50年の周年事業の一環で、SNSによる情報発信を始めた。

インスタグラムを活用した発信で、協会活動や2×4工法の認知向上・普及活動の一環。7月1日から開始し、会員企業の建築事例や会員及び一般向け講習会情報など幅広く掲載していく。従来、ホームページでもさまざまな発信を続けてきたが、SNSで発信力を強化する。会員企業としても協会の公式SNSに事例等を掲載することで信頼性を高めることにつながる。

24～26年度の3カ年を期間とした50周年事業は多彩に企画している。10月にはカナダ林産業審議会（COFI）協賛で、会員企業対象のカナダ建築視察研修会を開く。既に申し込みは締め切っているが、海外の中大規模建築最新事例を見られる機会として多くの応募があった。こうした機会も会員メリットとなるが、24～25年度は入会金無料などの特典がある入会キャンペーンを実施中だ。

協会は50周年事業の展開とともに、人材の育成・確保、パネルの標準化等による施工効率向上、普及材使用による中大規模建築の拡大など、2×4工法の市場成長を促す取り組みを継続していく。

神奈川県などと外国人材受入れで協定

大東建託リーシング

大東建託リーシング（東京都、川原栄司社長）は18日、神奈川県及び神奈川産業振興センターと「外国人材の受入支援に係る協定」を締結した。

県及び同センターが今後の外国人材受け入れを強化するなかで、大東建託リーシングは主に外国人顧客を対象とした「いい部屋ネット インターナショナル店」（東京都新宿区）で部屋の紹介や入居までの支援をしていく。

会社探訪

先進的木造建築に積極的挑戦

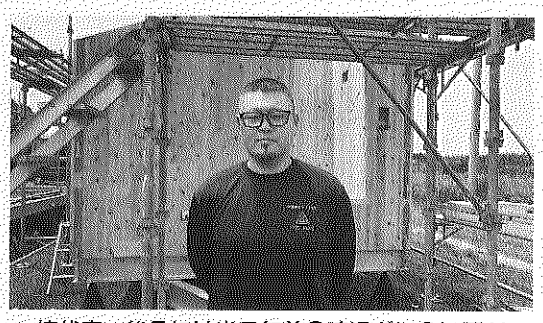
TICプラン（千葉）

技術の伝承で職人間の連携強化

TICプラン（千葉県香取市、椿純代表）は、住宅や非住宅の建築を担う会社だ。技術力はもちろん、工事現場がスムーズに回るよう現場管理についてもアドバイスすることで、住宅会社から厚い信頼を得ている。2年前からはCLT工法の建築も手掛けるなど、先進的な木造建築にも積極的に挑戦している。

同社は2021年6月に創業。椿代表が当時所属していた建設会社が廃業を決めたことをきっかけに、大工の仕事を続けていこうと起業を決断した。現在は社員5人と請負大工が25人程度いる。

現在は2×4工法の建て方を中心に在来工法の仕事も手掛けており、内容も戸建て住宅や集合住宅、さらには非住宅まで幅広い。椿代表は「誰にも負けないぐらい早く丁寧にやる。他社に負けない技術力を持つ」と意気込みを語る。


椿代表。後ろには当日午前8時過ぎにCLTが到着し、それから3時間ほどで組み上げたトレーラーハウスの躯体がある

自社の技術力を磨くだけでなく、いかにして周りに協力していくかも大事にしている。建築現場では、現場の管理者と施工する職人が作業工程などで対立するケースが少なくない。同社は、現場の段取りが順調に回るように、現場の管理者に提案することで「単なる施工業者ではなく現場管理のコンサルタントのような立ち位置になることで、住宅会社から頼られる存在となる」（椿代表）。

また、集合住宅などの大型案件では、他社の大工にも施工方法を教えるようなケースもある。かつて、職人の世界は見て盗めと言われ、他社の職人がいると作業を止める人もいたほどだ。しかし、椿代表は「自分の会社では見付からない人材をどう見付けるか。将来的に大型木造建築の施工を手掛ける際に職人をどう確保するか。他社の職人にも積極的に技術を教えることで、連携できるネットワークを構築していく必要がある」と考えている。

こうした考え方が反映されているのがCLTの建て方だ。同社は、住宅着工件数の減少は避けられないなか、木造建築施工の将来を考えた際に、木造高層ビルに注目。そのなかで、まずCLT工法の建て方に挑戦しようと考えた。

現在、同社はCLTを使ったトレーラーハウスの生産を手掛けており、3年間で70台近くを作り上げている。CLTは物件単位での利用が多いため、施工を見て経験したいと考えても物件がないケースが少なくない。しかし、同社では恒常的にCLTのトレーラーハウスを製造しているため、CLT建築に関心のある職人や大手ゼネコンの担当者が見学にきている。その際、職人には実際に施工を経験させており、CLT建築でもネットワークを広げている。

7月下旬には、伊豆諸島にある利島村で80坪程度のCLT工法の市営住宅の建て方を手掛ける。これまで他社の応援でCLT物件を手掛けたことはあるが、フルで施工するのは初めてだ。

椿代表は「伝統的な技術も大事にしながら新しいことにも挑戦し、多くの職人たちと協力しながら木造建築の可能性を広げていきたい」と話している。

メモ　▽TICプラン＝千葉県香取市九美上45－8。電話0477・879・5587。